横浜市立東俣野特別支援学校　学校評価報告書　（令和5年度版）

＊総括の評価　A=十分達成　B=概ね達成　C=努力必用　D=改善必要

重点取組分野	令和5年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きて働く知	①新教育課程に基づく授業づくりについて、必要な手続き等の検討及び授業実践を行い、一人ひとりの目指す資質・能力を育むための授業改善に努めます。 ②個別の指導計画の新書式での作成を行い、個に応じた的確な指導の充実を図ります。 ③多様な児童生徒の実態に合わせた指導形態や各教科の学習内容を設定し、学習環境を整えていきます。	①各学級で、一人ひとりの目指す資質・能力を育むための授業実践に向けて、日々の振り返りや校内研究を通して授業改善に努めた。 ②個別の指導計画等の作成・記入上の注意事項について、職員間で共有し、指導目標の達成や授業改善につながる内容になるように努めた。 ③多様な実態に合わせ、教科学習やオンライン授業など、より児童生徒のねらいが達成できるように指導形態・環境を整えた。	B
豊かな心	①東俣野小学校との交流に関して感染症等を考慮しながら、可能なものから活動を実施します。 ②教職員の人権意識を高め児童生徒の自尊感情を育む指導を行います。	①ふれあい交流を再開した。小学校の学年ごとの交流としたが感染症罹患者がいたため交流できた日が少なくなった。そのため本校の感染症ルールを見直し、交流をしやすくした。 ②今年度は子供たちを取り巻く環境に目を向けて「ヤングケアラー」についての研修を行った。本校のきょうだい児の課題に気づけるよう意識を高めることができた。児童の人権学習には、なじみのある絵本を教材にして実施した。自尊感情を育む教育の一助になった。	B
健康保持と増進	①児童生徒一人ひとりの障害の状況に応じた適切な（医療的）ケアに取り組みます。 ②児童生徒の持てる力や可能性を引き出し、個々に応じた取り組みを充実させ、体力増進と健康管理に推し進めます。	①保護者、主治医、臨床指導医等と連携して、一人ひとりに適切な（医療的）ケアを把握し、安全に取り組んだ。 ②感染症予防への対策を含めた、個々に合わせた口腔衛生指導やうんどうプログラム、体育の授業を通して、健康管理・体力増進に努めた。	B
開かれた学校	①学校運営協議会の更なる充実を目指します。 ②学校運営協議会を通し地域や関係諸機関の方々とともに学校の現状や課題を共有し、解決のための手立てを講じます。 ③保護者に対してPTA定例会などを通して情報交換を密に行い、協力体制をしっかり築いていきます。	①会場参加とWEB会議システムの併用により実施した。第2回目の協議会で、学習発表会を直接参観できたことは児童生徒の実態を知る良い機会となった。 ②教職員の多岐に渡る業務の解消に向けた課題等を年度末の教育委員会への要望書に取り込み、継続して進言していく。 ③コロナが5類となったことを受けて、PTA定例会等での意見を踏まえ、諸活動に活かすことができた。	A
いじめへの対応	①日々のクラスでの振り返りに加え、小学部・中学部・高等部での連携を充実させ、児童生徒の小さな変化を見逃さずに学校全体で共有し対応できるようにします。 ② 毎月の連絡調整会において、いじめや人権に関わる事案の確認を行います。	①各クラスの日々の振り返りで、いじめのことも含めた確認を行ったり、気になることがあれば部会で共有をした。 ②部会では、月に１回いじめや人権に関わる内容を話題にして周知を図った。	B
人材育成・組織運営（働き方）	①働き方改革として業務の効率化を図ります。特に会議の持ち方、回数を精選し、教材研究のできる時間を捻出します。 ②肢体不自由児教育における専門性向上を図るため、校内研修の充実や教育委員会が主催する研修会に参加し、更なるスキルアップに取り組みます。	①昨年より少し会議の回数を減らすことはできた。分掌見直しアンケートを行い、各分掌の業務内容の見直しを図ったが、引き続き業務の効率化を図る必要がある。 ②専門性向上のためOT研、PT研、特総センター研を校内研修として行ったり、特別支援学校初担当者研修にも参加をして。肢体不自由児教育のスキルアップを図ることができた。	B
キャリア教育	①進学や就労を見据え、実習等での福祉資源の活用を通して、一人ひとりの自己実現に向けた進路支援を行います。 ②自分づくりパスポートを活用し、小学部から高等部の学部を意識した更なる連続性・系統性のある進路支援に努め、キャリア教育の充実を目指します。	①個々の自己実現に向け、地域資源、就労、進学等の進路開拓を進めることができた。特に小学部や中学部の進路支援も柔軟に対応し、早期からの進路支援を果たすことができた。 ②各クラスに進路支援部員がいたことで、クラス単位で自分づくりパスポートの作成に取り組めた。キャリア教育に関する指導に役立てるようにするためには、自分づくりパスポートを授業と結び付けながら取り組んでいくことで効果が見込まれる。分掌として活用方法を発信しながら日々の進路支援につなげキャリア教育の充実につなげていく。	B
安心安全な学校	①新型コロナウィルス感染症対策として市教委からの通知を基に本校の感染症対策ハンドブックに沿った感染症対策を施しつつ。安心安全な環境づくりに務めます。 ②危機管理マニュアルの見直し、防災防犯に対する備品の充実を図ります。	① 新型コロナウイルスが感染症第５類に移行し、市教委からの通知を基に対応を変更した。 　本校の実態に合わせた感染症対策を実施した。 ② 危機管理マニュアルの見直しを行い、防災備品の日常点検を行い災害に備えている。	B

学校関係者評価	○コロナ後、小学校交流の再開、近隣の企業訪問の充実等、評価すべき点がある一方、保護者の方からは対外的な方面において期待が高かったことがアンケートから伺えた。今年度の取り組みを受けて、更に幅を広げていけるとよい。 ○災害対策について、福祉避難所として近隣の施設を確認するなど、学校と地域の方と協力体制を更にとっていけるとよい。現実に即した避難訓練の実施検討や学校内の備蓄（食料や電源等）の更なる準備があると安心。 ○学習発表会見学や写真による学校での取り組みの報告では、子どもたちの様子や先生方の取り組みがよくわかった。まだ学校側の評価が控えめで、これだけの取り組みが行われていることに対しもっと評価を上げてよいと考える。
評価結果に対する学校の見解	令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類相当へ移行したことを受け、さまざまな行事が形を変えて再出発することになった。特に東俣野小学校との「交流」においては、なかよし交流の充実、東俣野はばたきスポーツフェスティバルへの応援・参観という形で小学校保護者様席を一部開放していただき、子どもたちが応援席で参観でき、盛大さを感じられたことは大いに評価できる。「キャリア教育」においては、進路指導専任を中心に地域の企業との連携を深め、職場実習や学校だよりの配布などで地域に根ざした関係づくりができた。令和6年能登半島地震を受け、令和6年度はライフライン不通時の地域防災への取組みをさらに加速させ、安全安心な学校づくりを推進する。

学校経営中期取組目標振り返り	○５類に移行したとは言え、コロナ及びインフルエンザ等の感染症対策を取りながらの教育活動になるため、安全安心な活動内容を模索しつつ、教育活動を拡大し実施していく１年間となった。 ○東俣野の地域、地域の企業等から様々な支援をいただき、隣接する小学校とも連携しながら、目標を具現化し教育活動を充実させていくことで、目標達成していくことができた。 ○教育課程の整備や授業改善、医療的ケアを含めた安心安全な学校環境整備に全職員で取り組んだ。今後も、子ども達の学びを止めない学校づくりを推進していく。